



二十四節季

1年365日を24等分すると1等分が約15日になり、冬至から始めて約15日ごとに時点を設け、季節にちなんだ名称をつけたものが、二十四節季です。

8月にちなんだものは、



立秋

(秋の気が初めて立つ)

8月8日ごろ

この日を境に秋の風が吹いてくるとい意味です。



処暑

(秋陰の気が増長し、暑気退かんとす)

8月23日ごろ

そろそろ暑さもおさまり、涼しくなるころという意味です。



お盆

ご先祖様の霊をお迎えして、供養をする行事です。この日は、亡くなった方々の魂が戻ってくるといわれています。

家族や親せきと一緒に過ごし、仏壇、お墓の前で手を合わせることは、たくさんの人々とのつながりを感じることでできる良い機会です。



異年齢の関わりの中で育つもの

7月23日付けの「リビングひろしま」というタウン情報誌に湯崎広島県知事が「10年後の広島の姿～子育て・教育編」という見出しでこれからの広島の子育て・教育について話されていました。「妊娠から子育て期まで切れ目なく子育て家庭を見守り、支援する取り組みを行っていくこと」「オンラインで子育て中のパパやママが気軽に相談したり、お互いがつながって交流できるおしゃべり広場を始めたこと」などが書かれていました。また、教育面では、「頑張る力や対人関係を作る力など、将来自分がやりたいことを実現するためには、非認知能力が大切で、その力は、乳幼児期のあそびの中で培われる。学校においても学びの変革が進んでおり、教えるということだけではなく、子どもたちが持っている力を100%引き出す指導が重要。そのために県教育委員会の中に、乳幼児の教育の質を高めることを目的とした乳幼児教育支援センターを設置した。」と語られていました。非認知能力はあそびの中でしか育むことはできず、そのためのあそびの環境づくり、保育士のかかわり方など「非認知能力を育むためには」というテーマで、すいこうだけではなく、みみょうグループ全体で、研鑽を重ねているところです。この記事を読みながら、すいこうを卒園した子どもたちは、10年後の広島県で生き生きとした姿を見せてくれるのではないかと期待するのです。

さて、今年の夏まつりも、コロナウイルス感染対策のため、『夏まつりごっこ』として開催しました。浴衣や甚平を着て登園する子どもたちのワクワクした表情から、今から始まる夏まつりへの期待が感じられました。日ごろのあそびの中で作ってきた「おもちゃ屋さん」「ゲームコーナー」「ジュース屋さん」などにはたくさんの作品が並び、お店屋さん役の子どもたちは、「いらっしゃいませ。このジュースはおいしいですよ」とお店屋さんになりきっていました。お店は、縦割りグループで回ったので、年長さんは、年中さん、年少さんの手を引いて、「どこのお店に行きたい?」と優しく聞きながら各お店を回り、お買い物ごっこをして手提げ袋がいっぱいになった年少さんの袋を持

ってあげたり、とても優しい年長さんです。縦割り活動のときだけではなく、朝夕のあそびの中でも一緒にパズルやブロックで遊んでくれたり、はさみの使い方などをさりげなく教えてくれる年長さんのことが、年中さんも年少さんも大好きで「自分も大きくなったらあんなお兄ちゃんお姉ちゃんになりたい」というあこがれのような気持ちを持っています。年長さんもちよっぴりおとなしい子でも、小さな友だちの前では、自分から話しかけたりしてたくましく、優しいお兄ちゃんお姉ちゃんの顔を見せてくれます。

異年齢の子どもたちが一緒に過ごすことによって、大きい子どもたちは、自分のしたいことをちよっぴり我慢したり、泣いたり、困っている友だちに優しく声をかけたりして、相手を思いやる気持ちが自然に育っているようです。縦割り活動は、コロナなどの感染症の拡大リスクは大きいのですが、さまざまな状況を把握しながら、今後も継続して取り入れていきます。子どもたちが、同年齢とは違う小さな社会の中でさまざまなことを学び、より自分らしさを発揮できる場となればと思っています。

今年も平和公園では、祈念式典の準備が始まっていますが、コロナ感染予防ということで、昨年同様規模は縮小されるようです。私たちは、子どもたちとともに従来の在り方ではないけれど、夏まつりを楽しみ、絵の具あそびや水あそびなどさまざまなあそびを無心に楽しんでいますが、争いが起こっている国の子どもたちは、ちょっとした物音におびえ、今食べるものさえないのです。笑顔なんてできるわけもなく、不安で不安で小さな胸は張り裂けそうなことでしょう。私は、「いつもとちよっぴり違って、今日も子どもたちと楽しく過ごせた。子どもたちの笑顔を見ることができた。」ということが普通であることに感謝し、それが永遠に続くことを願っています。そして、子どもたちの笑顔がいかに尊く、その笑顔を守ることがどれほど大切なことなのか感じながら過ごしていきたいと思ひます。

園長 上原玲子

絵本からのメッセージ

二平方メートルの世界で



脳神経の病気で3歳のころから入院を繰り返している前田海音さんが小学3年生の時に書いた作文(子どもノンフィクション文学賞大賞受賞作品)が絵本になりました。



平和に関連する絵本を少し紹介します。親子で読んでみてくださいね。



へいわってすてきたね



さがしています



ぼくがラーメンたべるとき

